



道

みちもり

守

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

創刊号  
04.2.25



巻頭随筆

「道に出会うこと」 佐木隆三

道守九州会議 発足によせて

安心して利用できる道づくりは、  
私たちの手で管理し、育む文化です。宗 茂

道を楽しむ[街道を行く]

幕府直轄の九州最重要拠点。  
天領・日田へと集まる街道。 日田往還



私たちにあって道とは何だろう。高速自動車道から散歩道まで、どれ一つとっても、日々の暮らしに欠かせないものだ。古代から、人々は共有の財産として、力を合わせ、道を作り道を守ってきた。道は「みんなの」暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道は人々、地域から遠い存在になった。あなたは子供が道路でキヤッチボールや縄跳びをし、老人が番台で将棋をさすあの風景を思い出しませんか。道路は便利だけれども、車のためのもの、子供や老人には危険な存在、大気汚染や騒音をまき散らすものなど。私たちは心地よい広場としての道「公共」を失ってしまったのだろうか。心にも忘れ物がある。「道普請」みんなで心と力を合わせ、道を作り、守る。しかし、今、道づくりや管理は「行政の責任」ですませていませんか。自宅前、事業所の前が汚れ、雑草が茂

ついても知らん顔。空き缶どころか、家庭ゴミまでポイ捨て。家の前の歩道に花壇、窓を花で飾る人々の住む国がなんと遠いことか。

心ある人々を中心に、私たちと道との関係をもう一度考え直してみようという気運が生まれ、花いっぱい運動などが育ち始めた。道路行政も量から質へ大きく転換しようとしている。そして、住民と行政の協働という「新しい関係」も芽生え始めてきた。

そうした気運と潮流を一つにまとめ、大きな流れを作り出そう。それが、「道守九州会議」設立の呼びかけになった。道守。万葉の昔から、そう呼ばれる、道を守る人がいた。旅人のおなかと喉を潤す果樹を沿道に植えた行政の心があつた、という。住民と行政がそれぞれの役割を果たしながら、協働して道路を守り育てていく。21世紀の道守。そんな「道と人の新しい縁」を作り出す道を拓き、一歩踏み出そう。



- 1 巻頭随筆 「道に出会うこと」 佐木隆三
- 2 わたしの好きな道 「歴史のみち・山鹿」 中村幸子
- 3 今なぜ道守か 樗木 武
- 4 道守九州会議発足に寄せて
- 6 シンポジウム報告 「人と道 その新しい縁in福岡」  
「人と道 その新しい縁in湯布院」  
道守座談会 「いま求められる道守の心」
- 10 私たちの道守活動 社会実験やボランティア・グループなどの紹介
- 14 道守たち 試みはいま 「天神は…」
- 15 道を楽しむ 「浪漫を探して・土木遺産」 「道守旅紀行」 「街道を行く」
- 18 海外道事情 「ポスト・モータリゼーションはアメリカから」 黒瀬重幸
- 19 「道守九州会議」のご案内
- 20 「道の声・人の声」と「道守」短歌発表



表紙画:久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」  
同人。グループ「五架会」会員。

巻頭随想

# 佐木隆三

## 道に出会うこと



関門海峡の魅力は、やはり夕陽である。マンション二十四階の仕事場から、傾いていく太陽を眺めていると、わが人生の来し方が思われ、「あの時こうすればよかった」というような悔恨の情にとらわれて、夜更けまで悶々として過ごす。そういう時間が持てることの大切さに、この年齢になって気づいた。

しかし、陽はまた昇る。朝になって原稿用紙に向かい、いつものように仕事をし、午後散歩に出ると、「まだ残された人生がある」と行く末を考えると、わたしの場合は、歩いているときの方が、より頭が回転するようである。当然ながら「前向き」である。そこが悶々と過ごした前夜と違うところで、「この先どう道をつけようか」と、自分の仕事の方向性を探るのだ。

せっかくの人生だから、「こういう分野の道をつけた」といわれるような仕事を残したい。そんな欲ばりなことを考えながら、いつもの散歩道を歩いていると、どんどん先へ進んでしまい、知らない道へ出ている。いつ、誰がこんな所に、道をこしらえたのだろうか、とキョロキョロしながらも感動を覚える。

そうなのだ。こうした道をつける人たちがいるから、自分も前向きに歩くことができる。後戻りしてみてもよいが、やはり積極的に歩くことで、自分の仕事の道をつけなければならぬ。そう思えばこそ、私は道路をこしらえる人たちに、こころから尊敬する。

### 佐木隆三プロフィール

昭和12年生まれ。戦後、旧八幡市に移り、旧八幡製鉄所勤務。同人誌「日曜作家」や「九州作家」「九州文学」などに執筆。退職・上京後の50年、「復讐するは我にあり」で直木賞受賞。現代社会の暗部を描き続け「ドキュメント狭山事件」「沖縄住民虐殺」「越山田中角栄」など。最近では法廷取材ルポルタージュが多い。現在、北九州市門司区在住。



## 山鹿

# 歴史の道

熊本の道を語る女性の会  
中村 幸子

熊本県北部の山鹿市は、菊池川の中流部に位置し、かつて水運と街道の接点として賑わった。泉質に優れた温泉と由緒ある酒蔵がある。近年は某コーヒーメーカーのCMで登場、山鹿灯笼踊りで一躍有名になった。頭にろうそくを灯した紙灯笼を乗せ千人の女性が踊る姿は美しく、幻想的だ。

物資の集散地であり、街道の宿場町でもあった山鹿には、多くの商人や旅人が集まった。温泉で疲れを癒し、芝居を楽しんだのだろう。芝居小屋・八千代座は本格的に復元され国指定重要文化財となっている。

参勤交代路でもあった。豊前街道と呼ばれる街道筋に江戸時代に建てられた土蔵づくりの一群が残っている。歴史の町並みを現代に生かそうと、若者たちが「米米惣門ツアー」を企画した。惣門とは重要な街道の出入り口のこと。惣門を通過して集積した米をキーワードに山鹿に残る酒蔵、米蔵、味噌蔵、そして寺の経蔵などを巡る。

「山鹿を深く知ってもらいたい。案内は月に500人が限界です」と中心メンバーの井口圭祐さん。この活動が、道筋の家並み保存運動にも発展。格子戸、白壁などで統一された家並みを残す動きだ。どう地域の共有財産として残すか、意識の統一は大変だという。だが、家並みへの関心は道の美化にも通じる。

地域の空間は人が創る。歴史を生き抜いた道の景観は地域の宝。そう実感したり、時を超えて考えたりしながら歩ける、山鹿の歴史的な道がわたしは好きだ。いろんな時代の道を楽しもう。



プロフィール

熊本生まれ。女性の視点から道づくりを考え様々な道取材中。九州の宝物を掘りおこして発信を続け、現在情報誌3誌の編集長を務める。



## 「住民と行政の協働」の試み、九州発

「道」は人(首)が行ったり来たりすることに由来する言葉です。「路」は足が各方面に向くことを意味します。つまり、道、路は人が基本であり、人あつての道であるということです。

### 道守は道の温故知新

この道について、1年余にわたり、多くの人たちと話し合ってきました。シンポジウムや討論会、情報交換の夜なべ談話などを通して、九州各地の活動や新しい動き、そして人々を知りました。道を掃き清め、道端で花を育てる人たち。街道や往還の歴史をたどる人たち。災害から道を守り、安全な通学の路の確保に励む活動。ウォーキングやランニング、サイクリングをしようとする道を楽しむ人々。いつしかそうした人々を私達は「道守」と呼び始めました。「道守」。それは人の魂を道に吹き込むものです。歴史を遡ると、万葉集に次の歌があります。

道守の 問はむ答を 言ひ遣らむ  
すべを知らにと 立ちてつまづく

(万葉集巻第四紀の国)

また、「古代の道守」は、旅人の飢えや渴きを癒そうと道沿いに果樹などを植えたともいいます。「道守九州会議」の発足はまさにその温故知新です。道守の源流に思いをはせながら、故きを温めて新しきを知る旅立ちであります。

### 「車重視」、「行政任せ」からの転換を

「みんなで心と力を合わせ、道をつくり、守る」「住民と行政が協働して道路を守り育てていく。」「道守九州会議」

の設立趣旨は、わたしたちのこれまでの話し合いの到達点であり、新しい旅立ちの宣言です。

話し合いの過程で、「これまでは余りに車重視だったのではとの反省が多く聞かれました。モーターゼーションと道路の整備が近代日本の産業経済の発展を、そして私達の生活にある種の豊かさをもたらしてきたことはだれも否定しません。しかし、失ったものもあります。道での人々の出会いと溜まり、子供達のはしゃぎ、お年寄りのそぞろ歩きや夕涼みなど。その喪失感の大きさ。いつとはなしに道を危険なものと考えおかしさに気が始めました。

国土交通省の「TURN道の新ビジョン」は、「いま舵を切るときと、くらしの道や人優先ゾーンの考え方への転換を打ち出しています。ここ1年余り続いた私達の民・官・学一体の論議そのものがそうした試みでありました。その一方で、空き缶やタバコのポイ捨て、放置自転車、家の前のごみも「行政の責任で処するもの」とする傍観姿勢などの問題が、むしろ住民の側から浮き彫りにされました。

### 多彩な実践が先導役になる

これらの話し合いに光明を灯したのが九州各地の現代の「道守」たちの登場でした。シンポジウムや連絡会は回を重ねることに実践報告や意見が増え、その多彩さに私達だけが目を見張りました。

清掃や除草、花壇づくりや植樹、道遊びの復活、歴史や自然の検証と保護活動、歩行者天国や通学の安全の確保、それらを複合させた地域づくりへの展開など。道の整備や道守に積極的な住民参加の事例もあり、行政の側からも「地域と行政が一緒になった取り組みが必要」と呼応しました。まさに現代の道守活動それ自身が「住民と行政の協働」と

いう私達の旗印を押し立て、ひいては道づくりの新しい基本理念になると確信するにいたったのです。

### 道の使い手であると共に守り手にも

九州各地の道守のみなさんが話し合いに参加され、活発な意見交換が「もつと交流を」との機運を高めたことは言うまでもありません。これまで約30団体のみなさんが準備会に参加され、この度の「道守九州会議」の発足になりました。国土交通省九州地方整備局の調査により、九州の道守活動の団体・グループは400を越え、その参加構成員は7万人にも達しています。大変意を強くするところで、さらに多くのみなさんの参加と交流、連携が、それぞれの活動をより実りあるものにすると思ひます。

ある道守の方の言葉を借りれば、「家を一步出れば道であり、一人ひとりが道の使い手であると同時に守り手」であります。個人で、グループで、地域の実情や工夫、さらに歴史、文化に応じてより多彩に道を使い、道を守りましょう。この道守の心を九州から発信することで、その活動は全国に広がるものと思ひます。そんなことを予感しながら、「道守九州会議」発足を喜んでいきます。と同時に、みなさんに、「道守九州会議」への参加を心から呼びかけます。



「道守九州会議」  
代表世話人  
樗木 武  
九州大学名誉教授  
NPOみちしるべ会議代表理事

## 今なぜ道守か

私たちの新たな試みには、  
これまでさまざまな  
立場で道と街、  
そして環境に携わり  
続けている方々からも  
熱いエールとメッセージが  
寄せられています。



# 宗 茂

SHIGERU SO

安心して利用できる道づくりは、  
私たちの手で管理し、育む文化です。

走っていて気持ちがいい道。それはきつと、歩いていても、車椅子であ  
っても、気持ちよく利用できる道です。マラソンや九州一周駅伝とともに  
ずっと道を見つめてきましたが、安心して走りに集中できる道には必ず  
使う人の思いやりが息づいています。

たとえば、私たちが日頃の練習でよく使う松林のコース。シーズンを開  
かず散歩を楽しむ人も多いその道では、まるでそこがわが家の一部であ  
るかのようだ、いつも誰かが掃除や草刈りをして、いる姿を目にします。道  
と、道を取り巻く環境づくりは、私たちひとりひとりがこの手で管理をし  
て育てていくべき文化です。

多くの道守たちが道守九州会議の発足をきっかけに集い、語らいを重  
ね、道の可能性がますます拓かれることを期待すると同時に、私もまた走  
りを通して道との語らいを続ける、道守のひとりでありたいと思います。

## 宗 茂

1953年生まれ。佐伯豊南高卒、  
1971年旭化成入社。1978年別  
府大分毎日マラソンで日本人初  
の2時間10分台を切る好記録  
で優勝。モントリオール、モスク  
ワ(日本不参加)、ロサンゼルス  
の3回連続五輪マラソン日本代  
表。引退後は指導者として活躍。  
谷口浩美、森下広一ら五輪代表  
選手を育てる。延岡市在住。

撮影:数々の名ランナーを生んだオリンピックロードにて(宮崎県延岡市祝子川沿い)

## 「道守」は「暮らし守」



国土交通省  
技監  
大石 久和

この度、道守九州会議が設立されるにあたり、皆様のこれま  
でのご努力と熱意に心より敬意を表します。

道路は、私たち「個」の日々の暮らしを支える最も基本的な  
「公」の社会資本です。「道守」は、個を支える公の道について、  
植栽や歩道のあり方、あるいは道づくりを市民が主体となって  
考え、行政と協働して実践されるものと聞いております。

今、地域の活性化が課題となつていますが、それには、まず  
何よりも、地域に住んでいることが誇りに思えることが不可欠  
です。そのためには、花と緑が多く、清潔で、歩きやすく、美  
しい風景があるなど、道路がよい状態に保たれていることが重  
要な要素だと思います。その意味では、「道守」は、地域の誇  
りある暮らしを守る「暮らし守」とも言えるものでしょう。

皆様方の活動が進展し、より良い地域と暮らしに大きく貢献  
していくことをお祈りいたします。

## 道の再生へ向けて



九州大学大学院  
人間環境学研究院  
助教授 安立 清史

道はそこに住む人びとの人生や社会観を反映しているものだ  
と思います。何もない荒涼とした原野に小さな一筋の道を見つ  
けた時に、私たちは大きな喜びを覚えます。小さいけれど人間  
を支える営みだということが感動的に伝わってくるからです。

道が産業化や工業化を支える道路になつていくと、人のため  
というより産業のための道路としてとらえられるようになり、  
今、私たちは道の行方を見失いかけています。道守という言葉  
の中に、道を作り、守る地域の人びとの思いや行動が再生して  
くることを期待したいと思います。

## 美しい国 日本へ向けて



建築家  
松岡 恭子

日本社会は「不要なものをつくらない、必要なものはきち  
んとつくる」という方向に進むべきで、「とにかく安くつくる」  
方向に流れていくのは危険なことです。今までもっとっと粗  
悪な構造物が、この国を覆っていくかもしれないからです。

これからは、一つ一つの構造物にもっと気持ちを込めてつ  
くり、本当の価値あるものを後世へ残していくべきです。そ  
してそれらを大切に使い、守り育てながら活用していくこと  
が重要です。つくる側と使う側が一緒になつて、私たちの国  
土を子孫に手渡す努力を積み重ねれば、きっと美しい国日本  
が近づいてくると信じます。

## 九州の道を 共に育てましょう



九州地方整備局  
局長 岡山 和生

いま、市民参加型の行政が求められています。このような  
中、今回設立された「道守九州会議」が、市民の方々と行政  
がそれぞれの役割を果たしつつ「協働」して道をつくり、道  
を管理していくひとつの場として、活用され発展することを  
期待します。

ボランティア団体の方々やNPO団体の方々との連携が一  
層深くなり、市民の皆さんに道をもっと近くに感じ、もっと  
道を知ってもらえるよう、共に汗をかいていきたいと思います。



新しい道のあり方を求めて民間、行政、学者が意見を交わす試みは2002年12月の長崎フォーラムから始まった。「人と道 その新しい縁」...

くなる道」論や自然環境・暮らし・町づくりと道との融合などさまざまな課題を直視し、歴史や外国事例にも学び、夢を語りながら...

歩いて楽しい道造りを 市民と行政が連携密に

九州の都心・福岡市天神のメインストリート・渡辺通は、慢性的な交通渋滞に加え自転車の違法駐輪が急増...

【都市道路の現状は】 国土交通省の大石技監は「自動車のシェアリング...」

【どうする違法駐輪】 「平坦な地形の福岡都心には自転車こそとレンタサイクルによる社会実験を考える大貝さんは「使いやすいから路上違法駐輪が増える。都心部にもっと大型拠点駐輪場と小規模...」



和に民間にも協力してほしい」と呼びかけた。 「集中したら分散」というのは止めた方がいい」と家田教授。 「分散化で交通量が増えかねない。道路改善などがより効果的」

シンポジウム「人と道 その新しい縁」福岡(2003年2月18日、福岡市)

- 基調講演と報告 「福岡都心部の交通の現状と新たな取り組み」 森 昌文... 「湯布院・いやしの里社会実験」 桑野 和泉... 「那覇市国際通りトランジットマイル社会実験」 比嘉 司...

と回復という点から対処を」と呼び掛けた。 市域と人口が拡大し続ける福岡市。都市計画道路の整備率は6割。山崎市長は「人口ピーク2025年を見据え追いついていない都市機能や道路網整備の本格化の時期」だが「財政事情は横ばい。どう効率良く整備するかが課題」とした。

自然、景観を守って 癒しの里を次代に

- 基調講演 「アファンの森づくりと湯布院の心」 作家 C・W・ニコル パネル討論 「自然、景観を守り、癒しの里を次代に」

国内有数の温泉保養地に育った大分県湯布院町。雄大な由布岳の盆地は人口約1万2000人の小さな町だが、年間400万人の観光客が訪れる。観光マイカーや大型バスによる交通混雑。民間と行政が、ボランティアや観光客らの協力も得て、車が通らない町「実験」をした。

「道守九州会議」 結成の助走だった。 一連の民・官・学一体の道論議は「道守九州会議」結成の助走だった。



模な多地点型駐輪場を」と訴えた。「民間ボランティアやNGOが管理はできる」と実行策も披露した。 「増え続ける自転車に行政が追いついていない」と山崎市長。市の調査では天神に入る自転車は1日6600台以上で、違法駐輪4530台。市営駐輪場は2430台分。今後、後も駐輪場を計画的に増設するが「企業や事業所も従業員用駐輪場の設置を」と呼びかけた。マナーアップキャンペーンにも努め「福岡を自転車の似合う街にしたい」と宣言した。



【調整のシステム】 「日本のリゾートのイメージは温泉。外国人も日本の美を感じてほしい」とコシノさん。自然や景観を守り、映画祭や音楽祭を開き、国際感覚さえ根付く湯布院町、「それが人々を引きつける」と、浴衣でそろそろ歩き、と対比させながら湯布院の魅力をつた。

【都市と観光地の交通】 加賀百万石の城下町・金沢市は「歴史文化の観光都市」を掲げる。山出市長は「街を元気にするには観光客など交流人口を増やさねばなりません」と空港や港、高速道路など広域交通体系の受け入れ整備の必要を語る一方、都心部では「公共交通を優先、マイカー抑制を進めている」と説明した。 都市交通と観光地交通、本質的に違うものをどう調整するか。森地教授は「目的地へ速く着く優先の都市交通に対し、観光交通はどこを見せるか、流れの演出が必要」「湯布院町の場合、幹線ハイウェイと町への誘導補道路との接続はいいが、町に入った車をどうさばるか。どこで車を捨て、歩き始め、どこで



「道のボランティア活動に関する意見交換会」が国土交通省九州地方整備局の呼びかけで昨年10月9日、福岡市で開かれた。九州各地から27団体代表が参加し、道守九州会議の設立に合意した。



コシノジュンコさん



森地 茂さん



山出 保さん



佐藤 信秋さん

ム半年前の2002年秋、2日間行われた。にぎわいが不可欠な観光地や都市で車やバスの排除はリスクを伴う。仕掛け人の一人、桑野さんは「車が通らない町」というのは私自身、初めての体験」「実験を知らないハイヒールの女性観光客が靴屋を探しスニーカーに履き替え楽しそうに歩かれたのが印象的で、感動的でした」。参加者アンケート調査では観光客の9割が評価した。

金沢市は1988年から毎年5月のゴールデンウィークに「パーク&バスライド」などを実施。インターチェンジの駐車場でマイカーからバスに乗り換えて都心入りする方式が定着している。

商店街モール化や「パーク&バスライド」の成功例として森地教授はドイツ・エッセン市を紹介した。「1960年代半ば、商店街



モータリ化に商店街自身が猛反発したが、結果はモータリ化商店街に客が集中。あつという間に世界中にモータリ化が広がっていった」と説明。「すでに欧米では車の走行時間制限や特定地域からの排除は常識化」と道路づくりや交通行政への住民の主張を励ました。

佐藤局長は、古代・飛鳥時代の律令が、旅人に木陰を提供し、飢えを癒やすため約200mごとに実のなる木を植えるよう定めたことと、現代の「道の駅」人気を紹介。「道の駅は全国で約700カ所、地域の人たちの自発的運営で広がった」「公募中の『くらしのみちゾーン』は、住民の交通規制希望を応援します。通行規制や一方通行、電線地中化などの希望を取りまとめ手を上げてほしい」と道路行政へ住民の参加を重ねて呼びかけた。

道に市民の希望を。湯布院社会実験の「歩いて楽しいまち」に触発された議論は道の質にも広がった。「私はさらに、おしやれ」を加えたい」とコシノさん。変化とおしやれな店がある通り、その典型がフランス・パリ。「通りの演出をデザイナーが責任を持ってやっている」「私も日本でやってみた。看板の整理が難しかった」「湯布院町なら自然を生かせる。例えば目立ち過ぎ白ガードレールの色を変えたり木製にしたり。道が公園になる」と熱を帯びた。「ガードレールは白と設置要項にあるが、あ

道に市民の希望を。湯布院社会実験の「歩いて楽しいまち」に触発された議論は道の質にも広がった。「私はさらに、おしやれ」を加えたい」とコシノさん。変化とおしやれな店がある通り、その典型がフランス・パリ。「通りの演出をデザイナーが責任を持ってやっている」「私も日本でやってみた。看板の整理が難しかった」「湯布院町なら自然を生かせる。例えば目立ち過ぎ白ガードレールの色を変えたり木製にしたり。道が公園になる」と熱を帯びた。「ガードレールは白と設置要項にあるが、あ



座談会の要約

「道守への期待」

「道に関わるボランティアの多さ、分野の広さに驚きました」と阿野さんは切り出した。意見交換会後「すぐ県外の出席者から電子メールが届き、道守は県境を超えると実感した」と期待を表明した。桑野さんも同じく「さすが情報社会と実感し「道、身近で具体的なものを自分たちで守る、これは地域にもつながる」「都市だけでなく農村も、若者も子供も高齢者も新たなコミュニティ」と広がりの可能性を語った。

一方、行政。渡邊局長は「道路は本来、人のためにある。だがここ50年間、車対策重点に道路を作った」。しかし「この10年間は人



桑野 和泉さん



阿野 史子さん

のための道づくりに取り組んできた」と説明。その流れが道守意見交換会の開催や道守九州会議結成の応援となった。「道路管理者として非常に有意義なこと。さらに道路行政に生かす、道守九州会議の連携をさらに応援したい」と民間と行政の協働の志を強調した。

約1000キロを走りつなぐ世界最長の九州一周駅伝。そのランナーでもあった九州陸上競技協会の渡邊理事長は「自然の起伏がある九州の道路は走っていて楽しい」。現役時代の50年前、穴ぼこありの道を気にしながら走ったが今は完全アスファルト舗装。走りやすくなったが「車のための道、そこを人が借りて走っている感じだ」という。

車が主役の道路を再び「人のために取り戻す」にはどうすればいいのか。阿野さんは「家の前の道を掃き、水をまく。これが子どものころの手伝いの始まりでした」といい「いま、道掃除は行政やボランティア任せで、道は自分たちのものという感覚がなくなっている」と指摘。さらに「高速道などを別にすれば道を使うのは地域住民。歩

くのに不便なら改善を提案すれば

くまで標準。色を変えてもいいのです」と佐藤局長。柔軟だ。震災にあわなかったため古い町並みや家屋が残る金沢市の景観保全条例制定は早い。「歴史に責任を持つべき街」との指摘をきっかけに「景観行政にさらに目を向けた」と山出市長。全国に先駆けた伝統環境保存条例、市民と一緒に歴史遺産の保存、電線地中化、さらに眺望や俯瞰、夜間の景観についても考えているという。

「美しい国づくり」

森地教授は、戦前の橋や道路、建物作りは欧米で学び「歳月を経て価値が高まるようデザインされた」が「戦後は道路構造合などで

道守座談会「いま求められる道守の心」(2003年10月20日、福岡市)

人が歩いて楽しめる道へ おしやれも地域ルールも

座談会

「いま求められる道守の心」

- 桑野 和泉 (ゆふいんFAMILY代表、湯布院市長)
阿野 史子 (九州陸上競技協会事務局長、ベンチヨン 田原のホオノオ)
渡邊 和己 (国土交通省九州地方整備局長)
渡邊 茂樹 (国土交通省九州地方整備局長)
玉川 孝道 (同会)

「人と道 その新しい縁を掲げた民・官・学共同の道論議は、道づくりへの住民参加と行政との協働の方向へ熱っぽさを増し、柳川シンポジウム(2003年8月31日)には女性民間人によるトークセッションも登場。新し

マニユアル化。基本のルールと外れてもいいマニユアル、柔軟に解釈すれば地域に合った建造物ができると提案。佐藤局長も賛成、道路づくりを自然環境や眺望など景観にも配慮する「美しい国づくりの政策大綱」の検討を披露し「行政も美しいものを築ける」と期待を表明した。

最後に森地教授が「道づくりへの市民参加には道にかかわる人たちの合意が必要。リーダーがいるか、どれくらい実践経験豊富か成果が変わる。行政は町や都市の実情でサポートの色合いを変えねばならない。この感覚が行政職員に浸透しているか」と述べ、住民と行政の「協働」の大切さを強調した。

い道づくり・地域づくりの色合いを強めた。九州地方整備局は、道を舞台にする活動や実態、ボランティア団体・NPOなどを調査。その数、約400団体7万人。意見交換会を呼び掛け、10月9日に九州各地から27団体代表が福岡市に集まった。自ら「道守」と称し民間組織「道守九州会議」設立に合意、代表に橋本武・九州大学名誉教授を選んで設立準備が始まった。

現代の道守たちの登場と連携。全国初の試みだ。そのすばやい動きを評価し、道守活動の将来を展望する座談会は、九州の道・夢語りの場となった。九州路を一周する駅伝がオリンピックロードにつながっている話はその象徴だった。

いい。自分たちの道感覚が芽生える。参加意識が大切」と訴えた。「もつと子供を道に戻したい」と桑野さん。「車が入らない生活道路だと子供たちは自転車遊びやボール投げをし、社会のルールやマナーを学ぶ」「道は出会いの場、道遊びの子供たちに大人たちは傍観せずに声を掛けられる。地域コミュニティを取り戻すことにもなる」と生活道路や路地の大切さを語った。

渡邊局長は「一般に、道路は行政が作ったもの、自分たちの道路ではないと思われている。だからこみを捨てて平気になる」「改めて道が誰のものか、考える必要がある」と語った。

「駅伝は壮大なドラマ」 「日本のマラソンや長距離界はすべて駅伝につながっています。駅伝から数多くの名選手が生まれ、オリンピッククロードにつながった」と陸協の渡邊理事長。起伏と変化が多い九州路、沿道は豊かな自然、道端の応援。「九州の道を守るのには楽しい」と再び強調した。

駅伝の「駅」は鉄道駅でなく古代の「駅」が語源。国土交通省発案の「道の駅」と同じ源だ。車の流れをスムーズにする発想から「どこかで休む場所」への転換だった。「道の駅」人気は急上昇中。全国に743カ所、九州に73カ所。高速道路のサービスエリアと違い地域型の運営が特徴だ。土地土地の産品や名物があり、名所や歴史の案内など地域の特色を出しているのが人気の要因でもある。

阿野さんがグリーンツーリズム、週末の都会と近場農山村の行き来の増加を予測すると「家庭菜園がある道の駅もいい」と渡邊局長。農具も貸し出し地元農家が指導し座談会は一

気が新たな道守活動の可能性、夢を語る場になった。

「楽しく歩く工夫と地域のルール」

だが、都会と農山村の行き来が増えれば車が増加、自然や景観の崩壊の危機が発生する。湯布院町はその渦中。「町に入る車の規制ルールが必要。観光客と地域住民と一緒に取り組むのが大切」と桑野さん。前年秋の社会実験の好感度が自信になっている。

阿野さんも「長崎も同じ問題で悩む」という。狭い長崎の道に多くの車が入り込み渋滞。一層歩みにくい道になっている。「行政の強制規制では無理。地域で話し合っているいろいろなルールを実験的に提案していきたい」と新道守活動の抱負を語った。

楽しく歩くための工夫は、安心と安全が前提。ポインセチアの鉢を配って道に並べるイベントを計画中の阿野さんは「住民が道路沿いに花壇を作ったり、町を美しくする運動は大切。よく手入れされていると感心しながら見入ると鉢の世話人の名札があったりすると励みになっておもしろい」。

桑野さんは「歩くだけでなく、おいしい食べ物屋など立ち寄れるスポットも欲しい。地域を感じるスローフードと出合うのは楽しい」と田舎道を語り「福岡の天神には歩行者天国を」と都会へ提案。渡邊局長も「歩行者天国がないのに驚く。毎週が無理ならまずイベント型で体験を、評価を」と応じた。



渡邊 和己さん



渡邊 茂樹さん



「何より印象的だったのは町を歩く人々のイキイキとした表情。さらに実験  
町の人気が高まるほどに増える交通  
量。気がつけば、観光客も住民も安心し  
て町を歩けなくなっていた。これは今、  
全国各地の人気観光地が抱えている共通  
の問題です。」  
大分県湯布院町は一昨年11月、行政と  
交通関連の企業そして住民とが一体とな  
り「歩いて楽しいまちづくり」をテーマ  
にした「湯布院・いやしの里社会実験」  
を実施。7つの交通施策を組み合わせた  
複合型の社会実験は注目を集めました。

「今回の実験が今後の町づくりの指針  
となるのはもちろん、他の地域のみなき  
んにとっても問題を解決するヒントにな  
ったらうれしい」と桑野さん。湯布院町  
では実験の結果やこれを受けての試みを  
インターネットを通して  
広く発信中。誰もが  
地域を越えてつなが  
り、励まし合えるよう、  
積極的なアプローチを  
続けています。」



「失敗があるから成功がある。社会実  
験は地道な調査の積み重ねこそが大事で  
あり、決して結論を急いではいけません。  
多くの実験が実を結ぶためには国や行政  
の支援も不可欠で  
す」と清田教授。  
さまざまな意見を  
ステップに現在は  
新たな施策を構想  
中。車社会への挑  
戦はまだまだ続き  
ます。」



「何より印象的だったのは町を歩く人々のイキイキとした表情。さらに実験  
町の人気が高まるほどに増える交通  
量。気がつけば、観光客も住民も安心し  
て町を歩けなくなっていた。これは今、  
全国各地の人気観光地が抱えている共通  
の問題です。」  
大分県湯布院町は一昨年11月、行政と  
交通関連の企業そして住民とが一体とな  
り「歩いて楽しいまちづくり」をテーマ  
にした「湯布院・いやしの里社会実験」  
を実施。7つの交通施策を組み合わせた  
複合型の社会実験は注目を集めました。



「失敗があるから成功がある。社会実  
験は地道な調査の積み重ねこそが大事で  
あり、決して結論を急いではいけません。  
多くの実験が実を結ぶためには国や行政  
の支援も不可欠で  
す」と清田教授。  
さまざまな意見を  
ステップに現在は  
新たな施策を構想  
中。車社会への挑  
戦はまだまだ続き  
ます。」

## 歩いて楽しい町づくりの第一歩

●湯布院町まちづくり交通対策協議会

## 子どもが安心できる通学路を

●日新地区交通環境改善協議会



## 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。

それは私たち自身の未来を考えること。

歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために

九州各地の道守会員が取り組んでいる、

スタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

## 社会実験・3地域の報告

社会実験とは 住民が自ら新しい交通対策を立案・体験し可能性を探る実験。  
国土交通省が1999年度から公募、全国で約40数例実施。

● 街と自転車とのいい関係を  
● 輪くるサイクル実行委員会  
● NPOタウンモービルネットワーク

福岡市



「何より印象的だったのは町を歩く人々のイキイキとした表情。さらに実験  
町の人気が高まるほどに増える交通  
量。気がつけば、観光客も住民も安心し  
て町を歩けなくなっていた。これは今、  
全国各地の人気観光地が抱えている共通  
の問題です。」  
大分県湯布院町は一昨年11月、行政と  
交通関連の企業そして住民とが一体とな  
り「歩いて楽しいまちづくり」をテーマ  
にした「湯布院・いやしの里社会実験」  
を実施。7つの交通施策を組み合わせた  
複合型の社会実験は注目を集めました。

「失敗があるから成功がある。社会実  
験は地道な調査の積み重ねこそが大事で  
あり、決して結論を急いではいけません。  
多くの実験が実を結ぶためには国や行政  
の支援も不可欠で  
す」と清田教授。  
さまざまな意見を  
ステップに現在は  
新たな施策を構想  
中。車社会への挑  
戦はまだまだ続き  
ます。」

誰もが気軽に利用で  
きる便利な乗りもの、  
自転車。環境問題が深  
刻化する今、自動車に  
代わる交通手段とし  
ても、その利用価値に注  
目が集まっています。  
同時に、迷惑な駐輪や走行など、自転車  
を利用する側のマナーの悪化も深刻な問  
題に。福岡市では、自転車と街、そして  
人との関係を見つめ直そうとさまざまな  
社会実験が行われています。



市民みずからが自転車利用  
に関する街づくりや仕組みを  
考えたいと社会実験を試みた  
のが「輪くるサイクル実行委  
員会」。福岡市7区に在住の  
市民や企業、団体、学校など  
に約6800通のアンケート  
を配布し市民の意識調査を進めると同時  
に、天神や主要幹線の放置自転車の実態  
調査を実施。現状や問題点をつかんで、  
今後の具体的な対策を考えました。「い  
ちばん大切なのは誰もが互いに思いやる  
社会。教育の現場と共同で調査を進める  
機会を増やし、  
未来を担う子  
どもたちの意  
識を育んでい  
けたら」と委  
員長を務めた川口道子さんは語ります。

「失敗があるから成功がある。社会実  
験は地道な調査の積み重ねこそが大事で  
あり、決して結論を急いではいけません。  
多くの実験が実を結ぶためには国や行政  
の支援も不可欠で  
す」と清田教授。  
さまざまな意見を  
ステップに現在は  
新たな施策を構想  
中。車社会への挑  
戦はまだまだ続き  
ます。」



川口 道子さん



大貝 知子さん



清田 勝さん

佐賀市



ミのポイ捨てが少なくなるなど、みなさんの活動は通行者のマナー改善にも一役かかっているのです。

活動のテーマは「時を越え、未来にたくす自然と心」。熊本県玉名市の東の玄関口・八嘉校区の国道208号線沿いを花で彩るのは八嘉校区25地区から選ばれた72名の花づくり委員たち。活動日である毎月第4日曜には、小中学生から年配者まで幅広い世代が集います。国道沿いの花壇に植える花々は、校区内のビニールハウスで種まき、育苗を行うなど、委員全員が協力をして育てたもの。もちろん水やりや草取りといった日々の管理も交替で担当します。「何よりうれしいのは道行く人々から国道の花壇がとてもキレイと声をかけてもらった時」と代表・谷口美さん。花を植えた沿道ではふしぎとゴ



八嘉校区まちづくり委員会 (熊本県玉名市)

子どもからお年寄りまで共に楽しく、花いっぱいので校区を彩る。

官と民、個人の力を合わせ、美しいけやき通りを後世に残す。

福岡市の中心を横切る国道202号線の一部分、約100本のケヤキが並木道をつくる、けやき通り。人や自然にやさしく後世まで受け継がれる道をめざし、街並みの景観整備に携わっているのが地元の建物オーナーや企業を中心とした「けやき通り発展期成会」です。平成8年から5年間行われた官民共同による「やさしい空間づくり事業」は画期的なアイデアとして注目を集め、平成10年には活動そのものが第11回福岡市都市景観賞を受賞。沿道の清掃や花の植栽、ライトアップなど活動は多岐にわたります。



けやき通り発展期成会 (福岡市)



今後の課題は少しでも多くの個人単位の協力を得られるように働きかけていくこと。商業地域から住宅地域へと変化する街の現状と将来を見据え、環境づくりに対する住民ひとりひとりの意識改革にも力をそそぎます。

今後の課題は少しでも多くの個人単位の協力を得られるように働きかけていくこと。商業地域から住宅地域へと変化する街の現状と将来を見据え、環境づくりに対する住民ひとりひとりの意識改革にも力をそそぎます。

不法ゴミの撤去から始まった。会員同士の絆も深まる花畑づくり。

佐賀県東松浦郡の東南端に位置する厳木町。昭和63年、厳木バイパス工事が終わると側面にできたくぼ地には大小のゴミの不法投棄が目立ちはじめました。



牧瀬会 (佐賀県厳木町)

ゴミを撤去しようと力を合わせたのが、地元の人会「牧瀬会」のみなさん。撤去後の窪地は当時の建設省(現在の国土交通省)と借地契約を結び、花畑に活用。今も手入れを続けています。花畑の手入れや道沿いのゴミ拾いなど、活動は月に4〜5回。合言葉は「できることを、できる時に、できる人がする」。「活動日以外の外出時にもみんなそれぞれビニール袋を持参し、ゴミを拾うようになりまし」と代表の福山貞子さん。日々の活動で会員同士の絆もさらに深まっています。



「県民と観光客による喜んでいただく、楽しんでいただくことが、何よりの生きがい」という頼もしい40名がメンバー。観光地・宮崎の礎を築いた宮崎交通の従業員と会社退職者のグループです。目標は、宮崎市運動公園前からサポテンハーブ園前まで続く日南海岸沿線の景観をいま一度ロードパークとして復活させること。昨年5月のグループ発足以来、フェニックスやワシントンニアパームといった街路樹の剪定作業、下草の除去、ドライブインの壁のペンキ塗りなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

観光地・宮崎の復活をめざして日南海岸沿いの景観をさらに美しく。



宮交ボランティア (宮崎市)

約1万本のコバナセンナの苗木をつくり、植栽の準備は完了。今年の12月頃には海岸沿いが黄色い花に埋め尽くされ、朝日を受けて輝く、「ゴールド海岸」へと変身する予定です。



道を利用する人々の視点から明日の道の在り方と改善策を提案。

周囲を山に囲まれた長崎市は日々の交通渋滞、特に中心部を横切る国道34号線近辺のトラブルが深刻な問題になっています。市民の視点から道づくりを提唱する実行委員会は昨年からは国道34号の道路空間利用に関する調査「アット



ルート34ワークショップ実行委員会 (長崎市)

ルック34」を実施。道を利用する人々へのアンケート調査に始まりワークショップ、シンポジウム、フィールドワークを行い、市民の道づくりへの意識を高めました。官民共同で道路空間の整備に関する具体案を話し合い、提案しています。会員は、大学生や大学教授、主婦、PTAの父兄、雑誌編集者など、さまざまなシーンで町づくりに関わってきたみなさん。今年2月に第3回ワークショップ、3月にはシンポジウム、みちづくりに関する提案書のまとめと、精力的な活動が続きます。



市のシンボルが咲く「バラ通り」。協力を希望する声も続々と!

赤、白、ピンク：沿道に色とりどりの見事なバラが咲き連なる国道220号鹿屋バイパスを地元の人々は「バラ通り」の愛称で呼んでいます。



札元商工親睦会 (鹿児島県鹿屋市)

この道は、地元・札元地区の町内会や老人会、企業など10団体が結成した「ばら通り220協力会」のみなさんの手で保たれています。発足のきっかけとなったのは、環境美化のボランティア活動に携わっていた「札元商工親睦会」会長の呼びかけでした。鹿屋バイパスの4車化にあわせ、市のシンボルのバラを活かした道づくりを提案しました。



活動を続けて約1年、市や協力会には「私も手伝えたい」という声が続々と寄せられ、地域を活性化させる新しい運動と注目を集めています。



# 道を楽しむ

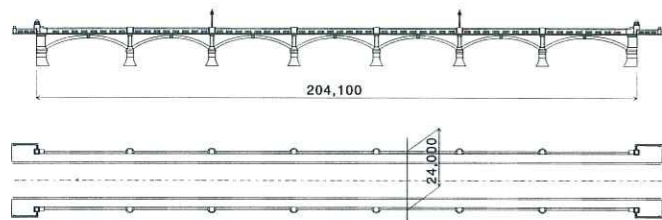
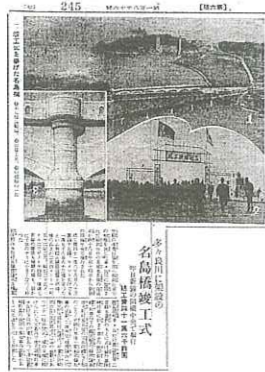
道を走る。道に憩う。道に遊ぶ。道の歴史をたどり、道に学ぶ。  
道の楽しみは無限に広がっています。  
価値ある遺産の姿に未来のあり方を問い掛けるもよし、  
四季折々の風景を追いかけてドライブでリフレッシュするもよし。  
あなたの好奇心そのものが、今日の道を楽しむナビゲーターです。



福岡国際マラソンの実況放送で必ず登場する、いわばランドマークといつてよい橋である。車で走っているだけでは、この橋の良さはなかなか分からない。悲しいことに、それが現実である。  
立ち止まることのない車社会では、その移動のスピードが橋のデザイン、景観との調和など「味」を消し去ってしまう。数ある土木遺産の中で、この名島橋を最初に取

り上げたのが持つ不運な境遇の典型例と思え

本新聞は航空写真で全景を紹介しながらヨーロッパ風の半円アーチを、クローズアップ写真で橋脚デザインを見せ、それに祝賀会、という3枚組みの写真で紙面を飾っている。現在の編集者がこれほど思い入れを注いだ紙面を作るだろうか。地域住民がこれほどまでに、橋をわ



が共有の財産として喜び合うだろうか。  
橋長204m、幅員24m、6車線、歩道2.5m、コンクリート橋に御影石で衣装。古希を迎えてなお健在。これだけの橋を今作ることができらうか。社会の財産づくりともいえる公共事業が荒波に洗われている現在、この名島橋が語りかけてくるものは実に多い。

(東久保平)

## 古希を迎えてなお健在の名島橋が時代を超えて伝えるメッセージ



### 名島橋

(福岡市東区名島)

●設計者…後藤龍雄  
●総工費…416,883円(昭和8年当時)



名島橋は手前(上流)から4番目、海側から3番目

## 道守たち 試みは いま

今わたしたちが使っている道は、さまざまな問題点を抱えています。  
安全性を取り戻し、街の活気とともに成長していける道づくりをめざして  
ひとりひとりの声や力を集め、大きく動きだした福岡市天神の試みを紹介しましょう。

### 道トークの渦

小学生から大学生、自転車対策課長も「マップでみなおそう!」  
福岡シンポジウム



小学生も大学生も、行政マンも、店主も、弁護士も新聞記者も、いま「天神」を語りだした。もっと歩きやすくないか、と。  
「快適な都市生活空間の創造に向けて」と題し2月10日、福岡市役所最上階講堂で開かれた「マップでみなおそう!福岡」シンポジウムは、多士済々な顔ぶれと多彩な調査・報告・意見が交流し、かつてないユニークな集いとなった。  
壁のパネル展示や調査報告は、小学生が歩いて調べた結果、例えば「点字ブロックの先は電柱!」とか、つたない手書き文字で「駐輪場を、



大学生のワークショップ「町の緑の歴史」聞き取り調査報告とか、建築事務所が作った天神立体模型とか、それらがみんな同居。

パネル討論の出席者は20人。意見は活発、かつ率直に交わされた。たとえば「全国に例がない役職」と紹介され冒頭に発言した福岡市の自転車対策課長は「増え続ける迷惑駐輪、対策の評価はまだ」。天神の売り場面積増と自転車増が重なっている実態も報告した。さまざまな形態の迷惑駐輪、なかには小さな気遣いもあることを報告した「ふくおか自転車なんでも調査隊」一なるほど、と参加者をうならせた。

放置自転車ワーストワン・福岡に寄せては「それだけ買い物や通勤に自転車が必要な都市」、「自転車利用ナンパーワン都市」、「商業者ももっと駐輪場確保を」など、近未来に向けて提言も相次いだ。さまざまな道守と道守活動の可能性を確かめ合う場もなった。

## 天神はいま

### マナーアップ始動

天神から始めよう。人にやさしい街「ハートウォーク天神」  
キャンペーン



きらびやかな街並みとは対照的に、無秩序に歩道を占拠する自転車は歩道の妨げとなり、歩道へのポイ捨てごみも目立つ。そんな街のイメージを一新する、安全で快適な街づくりキャンペーン「ハートウォーク天神」が昨年12月にスタートした。

キャンペーンを立案したのは、福岡市中央区天神地区の自治会や企業、行政など十団体で構成するマナーアップ天神宣言実行委員会。大名校区自治連合会の橋本剛吉会長は実行委員の一人。「天神に暮ら

し、営業する者として地域に何ができるかを考えてきた。とくに放置自転車などの増加で大名小学校の児童が交通事故の危険にさらされているのを目のあたりにしたとき、今やらなければ街がだめになってしまう、そう感じた。モラルやマナーの改善は時間がかかるが、地域ぐるみで取り組まなければよくならない」と活動の重要性を熱く語る。

「ハートウォーク天神」では、マナーアップ実現へむけ、第一弾としてマスコットキャラクターの愛称募集やモラル・マナーをテーマとした天神の風景写真を募集。2月24日には天神で公開フォーラムを開き、西日本新聞や天神FM、広報誌などで告知、運動の輪を広げていく。魅力あふれる街を守るため、天神に集うひとりひとりのマナーアップにむけた取り組みは今始まったばかりだ。



# 道守 旅紀行

車で走っても、車から降りて歩いてみても、楽しめる。九州各地の個性ある道の駅と、周辺の見所など魅力を紹介しましょう。

## 佐賀県 厳木町

山間を走り、心なごむスポットへ。風のふるさと“でりフレッシュ”

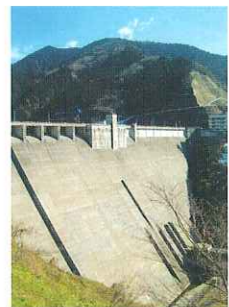
標高1046mの天山や標高887mの作礼山。周りをそびえたつ山々に囲まれ、谷間から来る風と豊かな清流に心潤う佐賀 厳木町。

県のほぼ中央部に位置し、総面積の実に7割が森林というのどかな町は、国道203号沿いにある道の駅「厳木・風のふるさと館」を中心に放射線状に広がっています。

まず、風のふるさと館には新鮮な野菜をはじめ地元の特産品がどっさり。風のふるさと館がオープンした当初からここで働いている白水セツ子さんは「とれたて野菜を買いに毎日来る人もいますよ。週末には県外からのお客さんも多いですね。館の隣では町のシンボルでもある高さ14mの巨大な左用姫像も歓迎しています。

### 『風のふるさと駅伝大会』

毎年1月に開催される厳木町の駅伝大会は、もう20年近く続いている恒例イベント。コースは天山ダムから厳木ダムを通過して町へと下る約17km。約100の団体が、脚力を競います。



### 厳木ダム

堤高117m、堤長は約390m。悠然と構えるその姿に圧倒される厳木ダムは、ドライブの休憩地点として最適。家族連れで楽しめる「さよの湖グランド」や水遊びもできる「親水公園」、キャンプ場なども整えられています。



### 結城食堂

道の駅に隣接する、厳木町で古くから親しまれている食堂。地元の新鮮野菜をふんだんに盛り込んだちゃんぽん550円は魚介類の旨みをベースにした醤油風味のスープが絶品。手づくりの温かい美味しさが印象的です。営業9時〜17時 定休日第2・4火曜



### 獅子城跡

築城は文治年間。安易に攻め落とすことができないとされた県下を代表する城郭。四方を囲む岩壁の上には建築遺構の溝や柱穴が、本丸の東側には井戸などが残っており、中世後期から近世にかけての城郭建造の構造とその変遷を伝えてくれます。



# 街道を行く

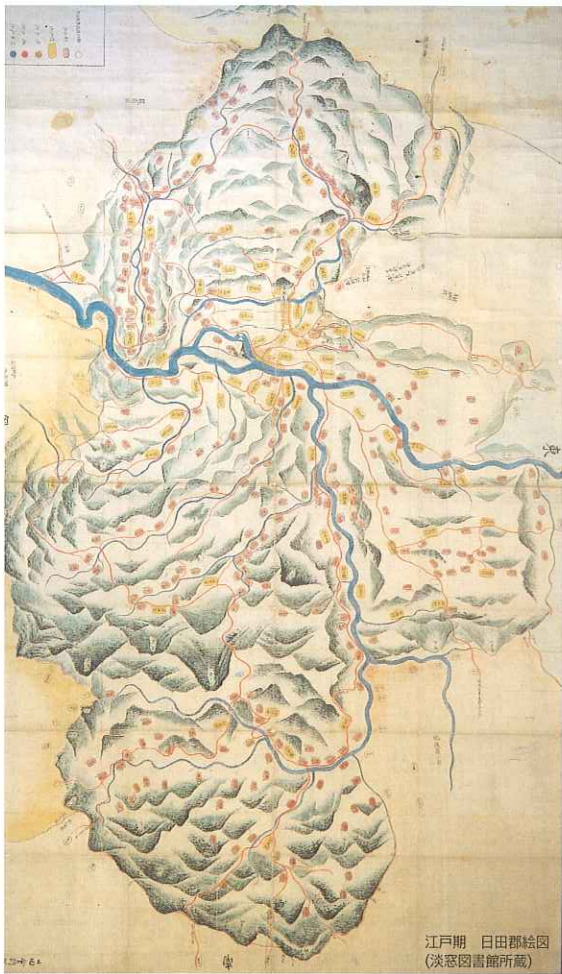
つた道、忘れられた脇道と変化はしても、その響きや歴史は豊か。立ち止まれば、訪ねれば、道への関心が深まります。

## 日田往還

写真提供 日田市教育委員会

### 幕府直轄の九州最重要拠点。天領・日田へと集まる街道。

かつて徳川幕府が九州の諸大名を監視した重要な拠点、天領・日田。現在の大分県日田市には九州6カ所の天領を監視する西国筋郡



代が置かれ、九州中の政治や経済、文化の情報はずべてこの地に集められました。「日田往還」とは当時、福岡・久留米・中津・大分・阿蘇など、各方面から日田へと通じる街道の総称です。数あるルートの中、今も街道の面影をもつとも色濃く残っている地域は中津方面に通じる中津街道(霊前街道)沿線。特に関ヶ原の合戦の後に入部した小川光氏が築いた丸山城の城下町であり、後に天領の代官所陣屋町として栄えた豆田町には、高野長英などを育てた学聖・広瀬淡窓が開いた私塾「咸宜園(国指定史跡)」や豪商「草野家住宅(県指定有形文化財)」をはじめ、多くの文化財が点在。白壁が続く風情ある町並みの一部は平成12年度に電線の地中化や道路整備といった環境整備事業が完了し、歴史情緒と共存する新たな町づくりが進められています。



石坂石畳道(県指定史跡) 中津方面からの人々が産物輸送のために通った道は、険しい峠を越えやすいようにと緩やかなカーブが続き、2mの道幅には中央に切石、両側に玉石が敷かれています。荷を運ぶ牛馬に配慮して、段差の位置も四足に合わせた通りです。

### 時代を超えても人々が歩み進む、険しい山に拓かれた石畳の道。

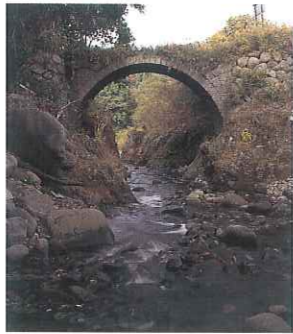
豆田町から伏木町までのおよそ10kmの道は、国から歴史的かつ文化的に価値ある道との認定されている「歴史国道」。その一部、市ノ瀬町の集落を抜けて伏木へと通じる1.26kmの山道こそが、県指定史跡の「石坂石畳道」です。

豆田町の「咸宜園」をスタート地点にこの「石坂石畳道」までの街道の歴史と景観を歩きながら楽しむイベント「石坂石畳道ウォーキング大会」が好評。 「地元の人でもこんなに立派なものがあるのかと改めて感動します。今年11月下旬に開催す



石畳道ウォーキング大会が好評。 「地元の人でもこんなに立派なものがあるのかと改めて感動します。今年11月下旬に開催す

夜場目鏡橋(県指定有形文化財) 日田と筑後地方とを結ぶ筑後街道沿い、内河野川が筑後川に流れる現在の高井町に残る、県下最古の石橋。長さ9m、幅2.5m、水面からの高さは6.4m。1806年(文化3年)、日田郡竹田村の石工が約400人の人夫を集めて築いたという。



豆田町 江戸期以降、独特の町人文化が育まれてきた豆田町。道路整備のおかげで電柱や溝が消えた通りはすっきりと見通しが良く、みやげ物屋や食事処、資料館、ギャラリーなど、個性ある店々にも気軽に立ち寄ることができるなど、歩く楽しみにあふれています。

福岡大学教授  
黒瀬 重幸

ポスト・モータリゼーションはアメリカから  
～歩行者中心の新しいまちづくり～



別名、ウォーカーズ・パラダイスと呼ばれるポトランドは全米で最も公共交通の発達した、暮らしやすい町として知られている。町を歩いて周りの静けさに気がついた。それなりに人はいるのに静かなのだ。車が

いない！通りを走るのには「R.T.（ライトレール上を走る電車）」のみ。街路樹が青々と繁り、空気は澄み切っている。このところアジア諸都市のすさまじい熱気（大抵は排気ガスや車の騒音）に慣れていた私には、意外な静けさである。排気ガスの臭い、重層的なエンジン音がない。風が通りを



吹き抜ける。横断歩道の真中でゆっくり写真を撮っても警笛は鳴らない。車がないのだから……。私はいま一度あたりを見回した。ゆったりとした広幅員の歩道は切れ目なく街路樹の豊かな葉の陰に覆われている。どこからか滝のような水音がする。歩道の端の土手を上がると、そこは一街区全体が人工の川に見立てられた公園である。ここは、かつて深い森林に覆われ、自然の滝があったに違いない。土地の記憶を、いくつものスポットから水が湧き、小さな流れが次第に合流して人工の滝になる公園に刻み込んだのだろう。

ポスト・モータリゼーション（自動車時代以降）はアメリカから始まるのかもしれない。そんな思いが頭の中をめぐり始めていた。一国主義と世界から非難されようとも、アメリカは西欧文化の継承者であり、歩行者中心の新しいまちづくりのうねりはアメリカの転向（モータリゼーションからポスト・モータリゼーションへ）の兆候ではないかという思いにとらわれてしまった。



筆者

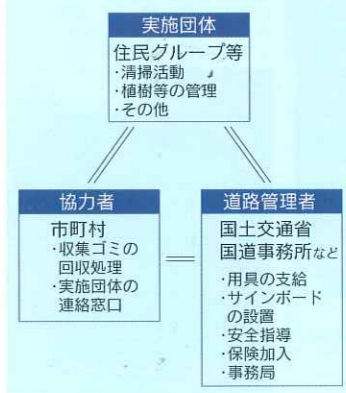


ご存知ですか？

道路ボランティア活動を応援する  
ボランティアサポートプログラム

「ボランティアサポートプログラム」では、みんなで使う道路を大切にしよう、道路ボランティア活動を応援。実施団体・道路管理者・市町村などの協力者と、3者間で協定を結び、スムーズに活動を続けていける環境を創ります。

プログラムの仕組み



道に関する「相談・質問」は  
何でも「道の相談室」まで

知っているようで、意外と知らない道のこと。道に関するご相談に応え、ご質問にお答えするスポットが「道の相談室」。いつでもお電話を。

九州「道の相談室」  
フリーダイヤル0120-106-497  
FAX092-476-3514  
●受付時間 24時間（但し、相談については午後5時以降及び休日の場合は翌日休日の場合は休み明けになります。）  
●一般電話  
福岡 092-60327143  
大分 097-5377206  
佐賀 095-22692511  
鹿児島 099-2138113  
長崎 095-8217312  
福岡 092-7115193  
熊本 096-3876363  
北九州 093-5823895  
受付時間 午前9時30分～午後5時まで（土・日・祝祭日・年末年始を除きます。）  
「ボランティアサポートプログラム」九州道の相談室のホームページは、<http://www.abururaprogram.jp/>

「道守九州会議」  
のご案内

「道守九州会議」は、九州で「道」に関するさまざまな活動、  
または活動を支援する人々や団体で構成する民間主体の任意団体です。

道守

「道」を舞台に、あるいはテーマに活動する人々を私たちは「道守」と名付けました。その活動を「道守活動」と呼びます。道守活動は、道の清掃や美化、植栽・植樹・育樹、使いやすい道や安全な道の調査・研究・実践、さらに道の歴史や文化の検証や継承など諸活動の総称です。

資格

九州で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人と誰でも自由に「道守九州会議」に参加できます。

目的

九州各地の道守と道守活動がネットワークし、「道」に関する情報を交換し、交流・連携し、自らの道守活動を発展強化するとともに新しい道守や道守活動の始動と参加を呼びかけ、新しい時代の道のあり方を実践しながら探ることを目的とします。

この目的のために道路行政機関や自治体とも連携し、民間と行政との「協働」を進めます。

事業

目的の実現に向けて次のような事業や活動に取り組みます。

- ①道守と道守活動のネットワーク形成と情報交換・交流・連携事業
- ②道への関心や道を大切にすることをめぐる各種の実践を促す啓蒙事業
- ③道に関する行政情報の発信や市民意識調査など研究調査事業
- ④その他目的を達成するための事業

具体的な活動として当面、次のような取り組みを行います。

- ①広報誌「道守通信」発行とホームページによる情報発信と情報交流
- ②道守活動展、交流・学習会、シンポジウムなどの開催
- ③暮らしのなかで道を考える研究活動
- ④道守活動への各種支援や協力活動

入会申し込み、問い合わせ

(社)九州地方計画協会内 「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守ホームページ <http://www.michimori.com/>

■e-mailアドレス michimori@michimori.com

「道守九州会議」の情報発信

- 広報誌「道守通信」の発行 設立総会に合わせて創刊
- インターネットで発信  
<http://www.michimori.com/>  
設立総会はライブ中継を予定
- FMラジオ放送「道守の詩」九州各県のFM局で放送中



「道守通信」

編集後記

▼創刊号を作る。至福の作業だ。出来上がったこの小冊子を見てみると、改めて、道守通信という名前もなかなかだ、と思う。道は古来、人、もの、そして情報を伝えるためにある。魏志倭人伝は、邪馬台国時代の道を「獣道」と変わらないかのようにレポートしている。以来二〇〇〇年、高速道路を疾走するとき、何と道は進歩してきたことか、同時に、人の意識から同じ猛スピードで遠ざかっていったことも実感する。道守通信は道と人の新しい縁を結ぶ通信回線だ。それが、何よりの道守り活動になる、と信じている。さあ、次号に取り掛からなくては。

(設立準備会副代表世話人・玉川孝道II ジャーナリスト)

▼「道を守る」、「道を育てる」、「道を楽しむ」：九州各地でいろいろなる形で道に関わっている人達のネットワーク、道守九州会議がいよいよスタートです。それぞれのグループの情報を繋ぐ「道守通信」創刊号もなんとかスタートできました。魅力ある情報誌に育てるために皆様からのご意見を期待しています。

(設立準備会編集委員・阿野史子II ルート34ワークショップ実行委員会)

▼厳しい日程での創刊に執筆協力をいただきました皆様、本当にありがとうございます。試行錯誤と時間制約の中で編集スタッフも努力した創刊号の姿ですが、今後の内容充実に向け、読者の皆様からの多くの叱咤、助言をお待ちしています。

(設立準備会事務局長・森将彦II 社団法人九州地方計画協会副理事長)

人と道、その新しい縁

今求められる道守の心

日時=平成16年2月25日(水)午後1時～  
場所=イムズホール(9F)福岡市中央区天神1-7-11

13:00 開会

13:05 特別講演

宗 茂氏 (旭化成陸上部監督)  
「走ってきた道」

13:40 基調講演

大石 久和氏 (国土交通省技監)  
「人・くらしと道」(仮題)

14:00 トークセッション

テーマ「今求められる道守の心、人と道、その新しい縁」

トークセッション出席者

●トータルアドバイザー

宗 茂氏 (旭化成陸上部監督)  
大石 久和氏 (国土交通省技監)  
橋本 武氏 (九州大学名誉教授)

●レポート兼トーク参加者

濱砂 圭子氏 (NPO男女子育て環境改善研究所)  
木下 真裕氏 (NPOグリーンバード)  
北島 悦子氏 (ロードネット佐賀)  
矢野 初美氏 (北川町の道づくりを考える女性の会)  
山内 芳一氏 (鹿屋市礼元商工親睦会)  
山口 西也氏 (ボイスアウト東彼杵第二回)  
廣田 幹人氏 (八嘉校区まちづくり委員会)  
森山 節夫氏 (イオン九州(株)パークプレイス大分店)

●コーディネーター

玉川 孝道氏  
([道守九州会議]設立準備会副代表世話人)

16:10 「道守九州会議」設立総会

主催/[道守九州会議]設立準備会

終了後、「道守九州会議」交流会があります。

同時開催 道守活動パネル展

会場のイムズホールロビーで道守活動パネル展が開かれます。

主催/国土交通省九州地方整備局  
後援/福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県  
宮崎県・鹿児島県・福岡市・北九州市



「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や随想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200~300字程度、写真も受け付けます。採用分には記念品を差し上げます。

〒812-0011 福岡博多区博多駅前 1-19-3  
(社)九州地方計画協会内「道守九州会議」事務局

ホームページは <http://www.michimori.com/>

歩きたくなる年 歩きたくなる道

新しい年がやってきて年女4回目を迎えた。嬉しくはなく、歳月と加齢の速さにただ驚くばかりだが、気分はちよつと3回目あたりとは違う。

1年半前からエアロバイクを始め、爽快感、充実感にはまっている。身体を動かすことが好きになった。ちよつとの時間を歩いたり、体操をするようになった。疲れが取れ、心が前向きになる。若いころには想像もできなかったことだ。もつと早く気付けばよかったのにと思ったりする。子どもが育ち手を離れてしまった今、自分の時間ができ、違う自分を見つけたことを幸せに思う。12年後の想像は怖く、したくはないが、5回目の年女の時も元気で身体を動かしてはいたい。そう思いながら今日も歩いている。歩きたくなる道もつとないかなと探しながら。

重松 順子 (北九州市、保育士)

一人一人の小さな行動 自転車調査で思ったこと

私は、この間の天神調査をして「歩道に自転車が多い」と思いました。自転車が置かれていて道がすくせまくなるし、広い道でも自転車のせいで普通の道ぐらいの広さになってしまっていて、車いすの人と自転車がすれちがうとものすごく危ないなと思いました。あと、細かいろじなどは、タバコが多いことに気がきました。やっぱり天神は大人の人が多いからタバコも多いのかな。

自転車は、今の地球にとっては良い乗り物だけど、管理の仕方や置き方しだいで、地球にとっても人にとっても悪いものになってしまうのではないかと思います。やはり、はい気ガスがなにもに頼るだけでなく、一人一人の小さな行動が地球を、人間を守るのではないかな、と思いました。

安藤 優季 (福岡市、福重小学校6年3組)

植樹から育樹へ―宮崎県道1号線「緑のトンネル」

官民が一緒に取り組んだ県道1号線「緑のトンネル」事業は、多くの人々の協力で5年の予定を2年短縮して完成、さらに県は約5億円を投じて道路の拡張や舗装、木製ガードレール、待望の展望台を整備しています。

植樹から育樹へ。主に植樹活動を担った官民13団体参加の「緑のトンネル」推進協議会は「樹木の成長を見守る」活動に入ることになり、昨年11月、第1回「緑のトンネル」育樹祭を開きました。会員をはじめ樹木のオーナー、県議もボランティアも参加して賑わいました。

「広葉樹を植えて緑のトンネルをつくらう」という育樹活動は、九州森林管理局の日本林業技術協会理事賞を受賞し、来年4月の全国植樹祭(西都市)でも表彰されることになりました。近づく春、4月には「緑のトンネル」は山桜が咲き、訪れる人々の目を楽しませてくれるでしょう。

坂本 新平 (緑のトンネル推進協議会会長)

慣れですね、道の掃除も家の掃除も

(福岡市中央区大濠公園側の路上で) 学校行事の一環で掃除をしています。ええ、最初は違和感ありましたよ。教室やトイレはともかく、なんで道や公園の清掃までって。お陰で掃除が好きになりました。最初の戸惑いから掃除好きへの変化のきっかけですか? うーん、慣れですね。きれいな方が気持ちいいし。

みんな生徒は掃除をします。学校周囲の道や大濠公園など外回りは交替で、毎日クラスごとに、合計だと一〇〇人くらいでやっていますよ。美容師は美しさを追求するのですから周りも美しく一学校の方針に納得しています。もう5年以上続いているのでもう伝統かな。それに空き缶のポイ捨てとかをしなくなりましたね。捨てる人がいれば拾う人が要るんだから。(談)

石橋 蘭子 (福岡市、大村美容専門学校2年)

「道守九州会議」発足記念短歌入賞作

最優秀歌は森川有さん(東京)

「道守九州会議」発足を記念する短歌を募集しました。九州を中心に遠くは青森、東京、大阪などから合計92首の作品がはがきやインターネットで寄せられました。河野裕子さんの選により以下の通り入賞作が決まりました。

最優秀歌

この道を選んねんまえに歩いてた  
ひとも見たかも知れない夕日

(東京都練馬区) 森川有



優秀歌

自転車を止めて花壇の草を取る  
会議帰りの背広のままに

(福岡県二丈町) 山崎源太郎

旅人の馬をつなぎし旧街道

並木残りて木洩れ陽あそぶ

(北九州市) 権藤美津子

入選

豹絵柄着ているように街路樹の  
木洩れ日受けて子等走り来る

(福岡県前原市) 柴田榮一



赤寺の庭に草抜く老ら居て

汗の顔上げ「ようこそ」と笑む

(福岡県前原市) 池田小枝子

ごみを拾ふ少年いくたり仄暮れに

カッターシャツの白きが動く

(福岡市) 古川郁子

三叉路の楠の大木見上ぐれば

かつてこの下に住みし人思ふ

(大分県日田市) 加藤文子

筈とし掘るをひかへし竹たちが

ワッサワッサと怪ふさぎくる

(福岡県大牟田市) 執行和子

選考評

道に寄せる思い多彩 秀歌に出会った

(選者) 河野 裕子

「道守九州会議」というネーミングに先ず感心し、その趣旨が大賛成です。いい歌が集まり楽しみながら選歌をしました。

最優秀歌はたぶん若い人の歌だろうと思いますが、わかりやすい表現のなかに実感が出ていて、多くの人の共感を得られるでしょう。同じ作者の「歩き続けることだけがあの頃の私を動かすせんまいだ」も心に残りました。

私は「歩く」という歌集を出したことがありますが、それは病気をして歩けなくなり、歩くことがどんなにたいせつなことか身にしみて分かったからです。

優秀歌の「自転車を止めて…」の歌は、自分の動作や服装を具体的に表現しているのです、その場の情景が目に見えるようです。花壇への作者のこころ寄せが感じられます。

二首目の「旅人の馬を…」は、昔と今を重ねながら旧街道の並木を明るい景のなかに捉えた奥行きのある歌です。ひころ何気なく歩いている道ですが、道に寄せる思いがこんなにも人によって異なり、また多様であることを、投稿歌によって再認識し、多くのいい歌に出会えたことを嬉しく思いました。

選者プロフィール

1946年熊本生まれ。

高校時代「コスモス短歌会」入会。

京都女子大学在学中に第15回角川短歌賞受賞。

1972年、第1歌集「森のやうに獣のやうに」。

1988年「塔」会員。





この道をせんねんまえに歩いてた  
ひとつも見たかも知れない夕日



広報誌「道守通信」創刊号  
平成16年2月発行

■発行「道守九州会議」  
■事務局（社）九州地方計画協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533  
●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>  
●e-mailアドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)  
定価 300円（消費税を含みません）